た。試練にあったときには雪にうずもれて忍耐強 く春を待つ福寿草! 蕾のままかと思い込んでいた 花も時を経て開花したこともありました。ひょっと したら眼には見えない花もあったかも…。

この生かす原動力と姉妹たちに支えられ神様 の恵みを豊かに受けて来たことを感謝致します。 神に賛美!神に感謝!

(初誓願 1961)

シスターメリー ジュネヴェーブ 佐藤

日本宣教 70 周年を心か らお祝いいたします。

私はノートルダムが日本に 来られた時は中学生でしたが教会のことも聖書の ことも何も知りませんでした。

友人が浄土寺町に住んでいたので「近くに新し い学校が出来て、美しい制服で私も行きたい。」 と言っていました。でも友人も私も母子家庭で夢 の又、夢でした。

京都に生れ、五条大橋の西詰で三方見える角 家でした。祖父が建てた地下一階地上三階建て で、五山のお送り火を全部見ることが出来ました。 今は高層建築で何も見えません。

私は家の手伝いをしていて「たばこ屋」をして おりました。パチンコ店などに卸していました。 そこでお皿洗いのおばさんが頸にオメダイを付け ていらっしゃったので「それ何」と言うとその方は 読み書きが出来ないのでと言って河原町教会の古 屋司教様の所に連れて行かれ、お話を聞くように なり、若い友達が居るだろうと紹介された方が女 性は皆、修道女になるべきだという考えの方で、

シスターメリー クリスティン 畑

修練長 Sr. メリージャンの ひと言、「やってみるまでは 『出来ない』とは言われま

せんヨ!」このひとことに励まされて私の奉献生 活は始まりました。種々様々の使徒職に派遣され た私は夫々の置かれた場で私なりに開花できまし



た。この言葉に倣って私の内面に潜在していた可 能性が引き出され(生かされ、福音化され)ました。 時には想像すらしなかった色や形の小さな花でし

私に勧めましたが、私は我が侭だからそんな所 に行けない、と断りました。神様の声に背くのは 良くないと言われ、丸山神父様に相談しますと、 五つの修道院に行きなさい、と言われ、女子パ ウロ会とノートルダムにすぐに入りなさいと言われ ました。私はシスターメリーポーロにお会いして すぐに来ても良いですが昔は修道院に入るために 持参金やいろいろのものが必要でした。親には 言えないので友人が全部準備してくれました。母 に住み込みで働くと言って、入りました。

後年母は「私は裏切られた」と言っていました が、修道会の御蔭で母の最後の世話が出来、母 は感謝してくれました。私も修道生活をして良かっ たと思っています。大きい世界を知り本当に毎日 を感謝し、貧しい人や苦しんでいる方のために祈っ て過ごしています。神に感謝。

(初誓願 1961)

シスターメリー セシリア 川村

入会の動機

入会前、修道院を訪問し た時、修院中庭に面した廊

下でアイロンをかけておられた当時の修練長シス ター・メリージャンの後姿にこれまでにない神聖 なものを感じさせられたこと。

SSNDは半観想会であると聞いたこと。

自分の信仰生活は浅く、これから学び信仰を 深めなければならないとの自覚と、本当に神を知 るようになりたいと思ったこと。

神は私の無知と誤解を通して入会へと導いて 下さいました。

心に残っていること

ある日、私が町を歩いていた時、一人のお婆 さんが私に向かって何かつぶやきながら手を合わ せて頭を下げるのを見ました。その時、私は強い ショックを受けました。なぜならその頃私は自分 がシスターと呼ばれる資格はないと思い悩み苦し んでいましたし、修道服を着ているのが苦しかっ たのです。この苦しみは長い間続きました。けれ ど今、そのことを神の豊かな恵みだったのだと思 えるようになりました。神は私を入会以来私に出 会わせてくださった全てのシスターと人々を通して 導いてくださいました。

祈り

今、この憐れみ深い神に心から感謝を捧げ、 神のはからいをほめ讃えます。また、忍耐とゆる しの心で私を助け支えてくださったシスター方と 神が出会わせてくださった全ての人々のご好意に 祝福と豊かな報いをお与えくださるようにと祈りま

私たちの主、イエス・キリストの御名によって。 アーメン。

(初誓願 1961)

シスターメリー フランシス 田北

1958年ノートルダム女学 院に就職。

当時は、女学院で教師と

して教える事に専念していたので、修道会とかシ スターなどについて全く考えていなかった。ある 日、シスター メリー キャサリンが話しかけて来

られた。「将来どうするつもり? 結婚するの? シ スターになるつもり? | 私はびっくりした。…シス ターになるなんで…。 なれるはずがないのに。 シ スターは「なるなら今よ。」とたたみかけられる。 でもその顔は真剣だった。私のようなものでもな れるなら、結婚するよりシスターになりたいと思 い始めた。女学院を一年で退職して、翌年シスター としての志願期に入った。

(初誓願 1961)

シスターメリー ベアトリス 田中

私のノビス1年目がほとん ど終わろうとしていた頃の出 来事です。

2月のある日曜日・静修日の寒い日だったと思 います。

昼前雪の降る中を、私の両親が鹿ケ谷の修道 院を訪ねてきたのです。

修練期なので、1年は家族や友人と会えないこと を両親は十分わかっていたはずです。それなの に2人の足が鹿ケ谷に向かったのでしょう。

修道院の入り口のドアベルを鳴らすと受付の日 本人シスターが出てこられ、静修の日曜日なので、 どなたにもお目にかかることができない旨、告げ られたとのこと、両親は、大きな重いドアを開け てまさに帰ろうとした時、聖堂の扉があいて、あ の大柄なシスターメリージャンが出てこられたとい うのです。

「オー、タナカサン。コニチハ。ヨクオイデクダ サイマシタ。ドゾ、ドゾ、オアガリクダサイ。」 と言って、コートやショールの上の粉雪を両手で 払落し、まるで放蕩息子が家に帰ってきた時の父 親のように優しく暖かく迎えてくださったのです。 そして部屋の真ん中にあった丸型の石油ストーブ に自らマッチで火をつけ、部屋を暖めようとされま した。

娘に会いたくてやってきた自分達になんのお咎 めもなく、むしろ嬉しそうにまるで待っていたか のようにもてなしてくださったというのです。

あの寒い冬の日のシスターメリージャンのお優し さ、忘れることが出来ないと何度もこの話を後程 聞かされました。

シスターメリージャンは、志願者や修練者にと ても厳しくノートルダムシスターになるためのしつ けを植え付けられました。あ一何度叱られたこと か。

沈黙の時間に笑ったり喋ったりするのですから 叱られるのもあたりまえです。

それでも私達は、いまだにメリージャンが大好 きです。毎日、ラテン語や英語の勉強、歌の練習、 川の掃除、障子の張り替え、草抜き…ありとあら ゆる労働をさせられましたが、みんなみんな懐か しい思い出です。

ノートルダムのホスピタリティの原点をシスター メリージャンから教わった私達は幸せです。

(初誓願 1961)

シスターメリー ベルナルド 岩井

1959年の入会の頃を振り 返り、当初の吃驚事項が、 今の言葉で云うとこういう事



かと理解することが多々あり、昔から同じ精神が

SSNDの歴史を貫いていることを知る。

入会時に持参品一覧(石鹸、タオル、歯磨き、 等々)によって持参した物は廊下の押し入れに。 必要時に「I humbly beg for 何々」と修錬長に 手を合わせて願い出る。すべてを共有するという 事か、と納得。

1961年誓願宣立16名の同期生は沖縄、女子大、 女学院、小学校、東京、その他へと派遣。 誓願の次の日「4時から職員会議。直ぐ行け」とその場で跪き、冠を外してもらい(3日間フリーデイと聞いていたが?と思いつつ)新しい職場へ直行。 その後1998年3月まで女学院での使徒職に就く。 (その間3回計4年間研修期間を頂く)遣わされた場で使徒職に励み豊かにされた。

あるシスターがにこやかに「ヤングシスターズ」 と我々を呼び、用事を頼まれた(名前があります と心で叫んだ)無名で「私達は神に招かれ、共 同体に於いて3つの誓願を生きる」という事か。

第二バチカン公会議を受けて会憲が新しくなる時、全世界の会員との数回の応答(対話)の後素晴らしいYASが生まれた事を大変有難く、誇らしく、感謝している。

1986年 銀祝でローマに1か月間の研修、11人参加する日本の事情を考慮して、7月5日始まりにして下さった。(変化への対応の豊かさ)キリスト教と、ノートルダムの遺産の豊かさに圧倒される。

同じ年9月からチャタワでのSSND刷新コースに参加。講師は殆ど全部SSNDシスターズ。あらゆる分野での人材の豊かさに驚く。

今、SSNDであることを感謝し、生涯を全うできる恵みを願っている。

(初誓願 1961)

シスターメリーアン 押山

(SSNDへの入会理由とか、自分にとってSSNDであることの喜びなどを質問)



○私は SSND しか知らないから SSND だから とかいう事は何も考えられない。

○私のような者でさえ受け入れてくれたという 事に感謝している。

○入会に際し、母は何も言わなかったが、母 の気持ち「結婚して押山家を継いでほしいと云う 気持ち」は痛いほど分かっていた。

(このことに関しては、強く、何回か云った)

○ SSNDであることに感謝しているし、SSND としての生を全うしたい。

(初誓願 1961) (文責 Sr. メリーベルナルド)

シスターメリーレオナ 松島

シスターレオナといえばお 華。 聖堂で個人の祈りを捧 げているとき、度々シスター



が祭壇のお花を手際よく生けておられる姿を目に したことを思い出します。そして中学生から大学 生、また卒業生への華道レッスン指導。サマー プログラムなど、文化交流のため来日されたシス ター方にも華道に触れる機会を提供しておられま した。シスターは日本未生流華道師範の資格保 持者です。

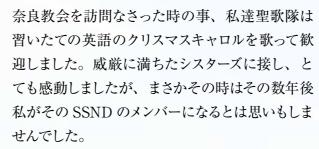
そのうちシスターはアートフラワー指導の資格

も取られ、教えたり、ジュビリーなどの機会に皆のためにコサージュを作ったりもされました。また、シスターたちの誕生日や修道名の祝日には手作りカードを送ってくださいました。2016年から慢性心不全のため入院生活が続いていますが、神さまはきっと今でも、美を通してシスターに触れてくださっていることでしょう。

(初誓願 1961年) (文責 Sr. ジュディス)

シスターメリーレジナ 樺山

初めて最初の4人のシス ターズにお会いしたのは来 日なさって直ぐの頃でした。



キャロルで歓迎した数日後私達はメリノールの 修道院に招かれ、再び、4人のシスターにお会 いするチャンスがありました。その時のシスター リチャーダン(メリールイーズ)の青い目と若く溌 溂とした姿に圧倒されました。その時シスターリ チャーダンが"ブルースカイ"を歌って下さいまし た。私達はお名前が分からなかったのでシスター ブルースカイと呼ぶようにしました。

それからかなりの年月が経ったある日、ND女学院の運動会を見に行きました。その時、シスターブルースカイがあのロングハビットの裾をたくし上げ、生徒と共に走り回って居られる姿が目にとま

りました。いままでの修道女のイメージではなく 生き生きとした教育者であると強い感銘を受けま した。私が入会を希望したのはそれがきっかけと なりました。

修練長シスターメリージャンの印象的なお言葉 としていつも心に残っている事があります。

"出来ません"という言葉の代わりに "やってみます" と言いなさい。と私は今アメリカで祭服関係の仕事に励んでいます。言葉も生活様式も違う所でしかも長年の教育の仕事とはかけ離れた使徒職を19年余りも続けられたのはあの言葉が根底にあったのではないかと思います。

勿論全てにおいて神様のお助け、お導きがな しでは考えられませんが。

(初誓願 1961)

シスターメリー ジャメイン 棚橋

鹿ケ谷に着いたとき、大きな木々はささやいた、静かなお庭はささやいた。



『待っていたよ』とそんな感じでした。今まで の心配や不安が、すとんと落ちた感じ。ここに来 てよかったのだと…。

私は修道者になれるとは思ってもいなかった。 学歴もなく信者としても何もわかっていない。で も呼ばれているという思いが続く。ヨナのように 逃げまわったり、神さまと賭けもした。色々ありま したが、伊勢湾台風によって、ノートルダムに運 ばれました。そして温かく迎え入れていただきま した。

まったく新しい日々が恵みのうちに始まりまし

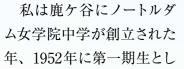
142

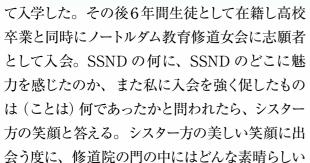
た。ミッショナリーのシスター方の熱意、先輩の シスター方によって徐々に徐々に導かれた日々が 56年になりました。私の使徒職は殆どは食堂の 仕事でした。

神さまが与えてくださった多くの恵みに感謝し そのうちのシスタードリーンを思いだします。私は 11年間シスターと共に働き、一から教えられ又シ スターの生き方に導かれました。シスタードリー ンは台所の仕事その他、洗濯、ウインプルの糊 付け等など下ずみの仕事を、深い信仰のうちに誇 りを持って見事に果たされていました。又人々へ の深い思いやり、ユーモアは皆を和ませてくださ いました。(物資も少なく国も違い大変だったと思 います)お互いに言葉も良く通じない中で、困っ たこともなく深い関わりもたせて頂けたことは本 当に大きなお恵みでした。幸せな初期養成だった と思います。この体験は今に至るまで助けになっ ています。

(初誓願 1962)

シスターメリー ピートラ 加藤



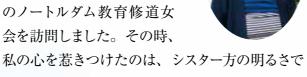


世界があるのかと、心がわくわくした。

(初誓願 1962)

シスターマリアン 児玉

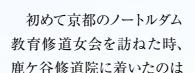
岐阜に住んでいた私は神 父様から紹介されて、京都 のノートルダム教育修道女 会を訪問しました。その時、



その姿から、神様に仕えることの尊さと喜びを 知りました。

(初誓願 1962) (文責 Sr. ピートラ)

シスターメリールーシー 江頭



夕方でした。玄関の前に立った時、横の聖堂か らお祈りの声が聞こえてきました。静かな中に素 直な自然な声が心を打ち、しばらく耳を傾けてお りました。修道院ではノートルダム教育修道女会 のシスターに始めて会いましたが、よくお話がで きました。翌日は午後から帰るため、準備をして 廊下に出ておりましたら、ハビットを着た二人の シスターが学校から昼食のために帰って来られた

のに出会いました。その歩き方が元気ではつらつ

としていて、私は嬉しくなりました。来たときに感 じたお祈りの声とこの二人のシスターの元気な明 るい姿で、私はこの修道会にとても好感を持ちま した。

入会を許されてから60年、ノートルダム教育 修道女会で育てられ、今、人生の最後の段階を 感謝のうちに歩んでおりますが、ノートルダム教 育修道女会に感謝! 神に感謝!すべてに感謝 します。

(初誓願 1962) (文責 Sr. ジョアンナ)